

第2回 市民動物園会議

会 議 録

第2回 市民動物園会議

- 1 日 時 平成19年11月30日(木) 14:00から16:30
- 2 場 所 円山動物園内 動物園プラザ
- 3 出席者 委員:原田 昭、服部 信吾、いがらし ゆみこ、井上 剛、
鈴木 美佐子、須藤 深雪、林 健嗣、森田 真未
(欠席)原 はるみ

事務局:環境局理事、円山動物園園長、種の保存担当部長、
経営管理課長、飼育展示課長 ほか

4 議 事

- (1) アニマルファミリー制度の実施予定内容
- (2) 円山動物園基本計画草案の報告
- (3) 平成19年度実施の新設・改修3施設の実施状況報告
- (4) その他取組事業の近況報告
- (5) 委員からの提案・意見交換
- (6) その他

1. 開 会

○金澤園長 それでは、定刻となりましたので、第2回市民動物園会議を開催させていただきますと思います。

いがらし委員は約1時間程度、森田委員は10分程度おくれまして、原委員は欠席されておりますが、会議は成立しておりますので、始めさせていただきます。

まず、私ども環境局の中村から、一言ごあいさつをさせていただきますと思います。

○中村環境局理事 皆さん、こんにちは。

お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

エコスタイルの時期に始まった第1回目ですけれども、もう雪のちらつくころとなりまして、季節の移り変わりを感じるこのごろです。

その間、動物園では、もう皆さんご存じのように、レッサーパンダがやってきたり、うれしいニュースとしてはライオンの子どもが生まれましたし、円山でしかなかなか実現できないホッキョクグマが出産準備に入ったということで、非常にうれしいニュースも交錯している今日のこのごろです。

今日は、前回の議論も踏まえまして、これからの核となりますアニマルファミリー制度と動物園の基本計画を中心に活発なご議論をいただければと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

○金澤園長 まず、資料の確認をさせていただきますと思います。

本日、テーブルに配付してございますのは、事前にお配りしましたが、その後、文章表現の修正などがあって相当数の枚数になりましたので、本日、改めて提出させていただきます。資料番号は1から5までのほか、一番最後に参考資料がついてございます。

資料の中には検討中のものもありまして、まだ最終版になっていないものも含まれております。本日、皆様のご意見、ご議論を参考に、よりよいものに進化させた上で最終版にしていきたいと考えております。したがって、今後も内容はまだまだ修正されるということを先にお含みおきいただきたいと思っております。

そういうことで、資料は1から5、参考資料となっております。

それでは、議長、どうぞよろしくお願いいたします

2. 議 事

○原田議長 それでは、早速、議事次第に沿って進めていきたいと思っております。

最初に、札幌市円山動物園基本計画草案というページがありまして、その後、基本計画の考え方、基本構想、基本計画の位置づけ、基本構想の構造図がありますが、これは前回もごらんになっている内容かと思っております。その後に目次がたくさんついておりまして、円山動物園の役割と行動指針編、経営戦略とソフト事業編、施設整備と動物管理編という三つの大枠があって、細かい項目ごとの内容が書かれております。

今日は、これにつきまして、気になっているところがございましたら後でご意見いただきたいと思ひます。

今日の本題は、まず最初の（1）アニマルファミリー制度の実施予定内容でございます。

このテーマにつきましては、前回、第1回におきましても、基本軸となるアニマルファミリーについて内容がわからないというご意見がございまして、今回、ここに添えられているものでございます。

順序として、この資料をずっとめくっていきますと、マスタープランのような資料2-2とか、A3サイズのページ等がございまして、進行上、2番目の基本草案の報告というところを議題にしていきたいと思ひます。その次のページのA3が終わったところに円山動物園アニマルファミリー（案）というものがございまして、これについて、まず事務局からご説明いただきたいと思ひます。

○金澤園長 それでは、ただいま議長からお話がございましたように、まさに第1回目の会議のときに資料がないままアニマルファミリー制度の議論をさせていただきました。今回は、検討中のものですが、案を作成してございます。

資料3-1に基づいて説明させていただきたいと思ひます。

この制度は、基本構想にも例示されておりまして、「わたしの動物園」の実現に向けた手法の中でも重要な手法、位置づけでございます。

まず、趣旨と目的ですが、「わたしの動物園」というオーナーシップを感じさせる仕組みを新たに導入することにより、動物と市民の関係性を大きく転換させることで、私の動物園、私の動物といった感覚をより深めることを目的としています。ファミリー、つまり会員となった市民が動物との絆や理解を深めるため、動物園から情報を発信するシステムを構築します。また、ファミリーが選択した動物を家族のように愛情を注ぐとともに、えさ代などの資金面でもファミリーが里親として支援する体制をつくるものでございます。

当面は試行ですが、来年2月から募集開始、4月から運用開始する予定でございます。

対象動物としましては、最終的に愛称がついているすべての動物を対象とする予定ですが、当面は、先ほど理事のごあいさつにありましたように、出産準備中のホッキョクグマのララなど人気の高い5種類の動物から始め、課題等を整理し、可能な限り早い時期に本格運用を目指していきたいと思っております。

それから、年会費は、高校生以上1口5,000円、中学生以下2,000円、法人、団体等は1万円としております。この金額は、制度を維持、運営していくには情報作成費や通信費などの運営費などもかかりますので、一定の金額をめやすとして設定してございます。当然、ちょうだいしました会費はすべて公金で、しかも寄附金の扱いにいたしますので、より適正な管理が求められるために、これは民間に運用を一任するわけにはいかないと考えております。そういう意味から、直営を想定してございます。

それから、ファミリーに対する特典といたしましては、近況をEメールで月1回程度、紙ベースでは年数回程度発信します。それから、同意した方のみ、ホームページに氏名を記載します。それと、誕生会、飼育員による講演会の開催などを予定してございます。そのほか、法人会員につきましては、会員であることを認証する証書を交付しまして、3口以上の会員については動物舎の方に銘版を設置するとか、商品、ホームページ、名刺などに「私たちは動物園を応援しています」などの文言使用を承認していこうと思っております。

それから、資料3-2をごらんいただきたいと思います。

これは、ほかの都市が今やろうとしているアニマルファミリー制度と類似する制度でございます。今、12件あるのですが、個人の場合は大体1,000円から1万円と会費の中には幅がございまして。この中で動物を選択しているのは、横浜のズーラシアや東京都の多摩、上野、高知ののいち動物園でございまして。さらに、全体を見渡すと大体5,000円ぐらいが中間ところで主流かなと判断してございまして。そんな意味からも、高校生以上の会費は5,000円と設定してございまして。また、会員数も、聞き取りができたところだけですが、大体年間500件前後と聞いております。

この制度は、動物園や動物あるいは市民との関係性を転換すること、さらには収支面、資金面からもぜひ導入していきたいと思っております。これは、リスタート委員会で議論して基本構想の中でもしっかりと例を挙げて、「わたしの動物園」をイメージしていくときの大事な手法となつてございまして、ご審議をお願いしたいと思います。

○原田議長 ただいま、アニマルファミリー制度についてご説明をいただきましたけれども、これについてご質問はございますでしょうか。

アニマルファミリー制度に加入するという点については、ここに書いてありますように、年会費がかかるということで、これは入園料とは別個のものであるのですね。

○金澤園長 はい、そうです。

○原田議長 それから、会員になった場合には、ここに書いてありますように、会員の特典があるということです。多分、こういう特典があるから会員になるということだろうと思うので、この会員特典が魅力的かどうかということがかなりかかわってくるのですけれども、ここに書いてある内容については、特によその動物園の特典とそんなに変わりはないのではないかと感じがいたしますが、この特典の内容については、これから開発を進めていくということではございませんか。

○金澤園長 そうですね。今、私どもが近況を報告したりというのは、今もブログなどをやっておりますので、それをもう少しよくする形にしていけば十分だと思うのです。ただ、お誕生会や飼育員の講演会というのは、例えば、チンパンジーのレディーは既にお誕生会があるのです。また、飼育員の講演会も、1月から3月までの冬の間、毎週日曜日にサンデーセミナーという形でやっておりますから、そういうノウハウは既に結構持っています。ですから、それをうまく組み合わせて、特定の動物のイメージを出して

いけるようにしたいと思っております。

今は、大体やれる範囲をきちんと書いております。そこで、試行の中にいろいろ課題を出していきたいと思っております。最初に申し上げましたように、将来的には名前がついている動物全部にしたいのですが、それは業務量としてどのぐらい出てくるのか。

例えば、リスタート委員会の議論の中にもあったのですが、これは会費ですけれども、何かの形で労働として会費に見合うというか、何かあったときにこういうものを見たらどうかという議論があったのです。そんなところも、試行の中で課題として少し整理して、次に全体に広げるときのベースにしていきたいと思っております。

そういうことも当然視野に入れながら、今、名前がついている動物が五十何種類かいるので、最終的には全部と言ったら50何種になります。そんなところから、ちょうど50件まで拡大することになるのかなと思っております。

○原田議長 このアニマルファミリー制度のそもそも論といいますか、なぜこれができたのかということについては、円山動物園に来られるお客さんと動物とのかかわりを見直そうということで、一方的に動物園で飼っている動物を見にいらっしゃいということではなしに、すべての動物は市民の所有物であるという考えに立って、それだったら、えさ代等の負担もしていただくという考えです。動物たちのファミリーになっていただいた方からご寄附をいただいて、そのかわりに動物たちを家で飼うことはできないので、動物園で預かっていただき、いつでもあなたのファミリーとしての動物を見にいらっしゃいという考え方に変えようというコンセプトで、リスタート委員会の中でも承認されたものなのです。

そういうふうに考えていきますと、先ほど言いましたように、ファミリーになって何が得られるのかということですが、動物と人間が今まで以上に深いかかわりを持つようになるのもっといいのではないかと思います。それは一体どういうふうにしたら可能なのかということが1点あると思います。市民動物園会議としては、どのような特典が得られる計画であるのかということを見守っていきたいと思っております。

例えば、よくあるケースといいますか、現在でも幾つかの動物園ではよく見られることなのですが、PC上から、このファミリーになるとパスワード等が得られて、そのパスワードを入力することによって自分がファミリーにした動物の挙動あるいは生態がいつでも自分の家で見られるという仕組みで、常に親しい関係がとれるというのは非常に大きなメリットだろうと思うのです。もうちょっと突っ込んで言いますと、カメラのズームをかけて近くへ寄せて見るということも中に含まれていけば、非常に近い動物との関係が生まれてくるのではないかと思います。

もう一つは、アニマルファミリーと言ったときに、家族が会費を出して特定の動物を指定することによって、動物をあたかも家族の一員にすることができるような感覚を持つてということがあるわけです。それと同時に、例えば、ホッキョクグマのララが私の

家族になったときに、このララには500人程度のファミリーが別に存在しているわけです。そうしたときに、ファミリー同士の人間関係、ファミリー間の親しみが生まれるということもあるのではないのでしょうか。

よく、犬の品評会等で、同じような種類の犬のファミリー同士が仲よくなっていくといったような効果も片方であるのではないかと思います。

ですから、この特典は、物的なことではなしに、会員証がもらえるとか氏名が掲載されるということだけではなしに、動物のかかわりを近しくするファミリー同士の関係も近しくしていくといったかかわりを広げていくことで、新しい動物園を介在させて、人とかかわり、動物とかかわりが深まっていくということが実現できるのではないかと思います。

このアニマルファミリー制度の目標としているところ、あるいは趣旨について、こういう考えはどうかというご意見がありましたら、ぜひお出しいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

先ほど、お話がありましたけれども、ライオンの子どもが生まれているらしいですが、そうすると、ここの対象動物として、リッキーだけではなしに、新しいアニマルファミリーとしての対象がふえていきます。あるいは、ホッキョクグマについてもそうだと思いますけれども、今はらしいという状態ですが、本当に生まれたら、すぐに名前がつけられ、ファミリーになりたいという応募が寄せられるのではないかと思います。

このあたりから出発して対象動物をどんどんふやしていくという考えのようでございますが、いかがでしょうか。

○金澤園長 今、ライオンの子どもの話が出ましたので、簡単に報告しておきます。

まだ雄雌は全然判定できませんけれども、27日の未明に2頭生まれております。リッキーが来て3カ月ぐらいたちますけれども、そのリッキーとティモンの子どものということで、今、子どもが確認できる範囲では2頭の子どもの生まれて、今のところは元氣だという確認がとれております。それ以上は、我々も中に入って行って、雄か雌か判断するわけにはいかないので、今のところ、そういう状態です。

それから、私の方から僭越ですが、1回目の議論だと、何となく会費が3,000円という議論が結構出ていたのですが、いかがでしょう。我々は5,000円ぐらいたないと維持ができないと実は思っているのです。

あと、こういう会費という考え方と同じ寄附でも募金のような扱いはまた別なのです。募金だと、子どもたちのしやすいようにワンコインで500円にすることもできますけれども、これと別な組み立てというか、この中に一つ募金箱をつけるという方法しかないとは思っております。募金だけで維持するとなると、採算ベースで申しわけないですけども、経費がかかって、幾ら集まるか見通しの立たない状態です。それは、アニマルファミリーというものをつくった後にもう一つ付加するというやり方しかないかなと思っております。

○須藤委員 入園料がセットになっていないことについてです。

できれば、入園料がセットになっていた方が、より自分の選んだ動物に会いにきやすいと思うのです。私は、そのために5,000円を6,000円にしてもはいいと考えます。その方が足も運びやすいです。足を運べば、会うこともできるし、お金の面でも、例えばジュース1本買うかもしれないし、お土産を買っていくかもしれないので、そういう意味で動物園に落ちるお金も変わってくると思うのです。

一つ、メンバーシップ制というものがここにはないですね。友の会というものがあると伺っていたのですけれども、それは、別の団体がつくっているのであって、動物園がつくっているのではないと伺っているのです。メンバーシップ制で5,000円でも6,000円でもつくって、いろいろベネフィットをつけてやるのか、もしくは、これだけでいくのだったら入園料を入れる方がより足を運びやすいと思います。

もう一つは、主婦の立場で言いますと、700円の駐車場代というのは結構高いのです。では、公共機関で子どもを連れてえっちらおっちらここに来るとしてもそのくらいはかかるのですけれども、メンバーシップになったり、アニマルファミリー制度の対象になったら少しはディスカウントしてもらえると、そういうことがあるとより足を運びやすいと思います。

私は、主人の仕事の関係と父の仕事の関係でアメリカに何年か住んでいたことがあって、ブルックフィールドズという動物園があるのですが、そこは、メンバーシップ制もあるし、アニマルファミリー制度で寄附をする形もあるのです。このアニマルファミリー制度一本でいくのか、もしくは友の会みたいなものを、今までの歴史があって、市民の方がつくっているものとの折り合いがあると思いますが、動物園の友の会のようなものをつくるのか。

より来園しやすい、子どもを連れてきてもお金の面でそんなに大変ではないとか、交通の面でも大変ではないという制度があった方が、より自分の選んだ動物に会いにきやすいと思います。

○原田議長 私の方から質問したいのですけれども、メンバーシップ制とアニマルファミリー制度の違いというのはどのようにお考えですか。

○須藤委員 これはアメリカの例ですけれども、老人、家族、家族にも幾つか段階をつけて、学生だったら家族ではないので個人、団体とかあるのです。そこには、家族だったら大人が2人、そのほかに付随してくる子どもはただで入れて、園内の飲食は何%ディスカウントします、お土産もディスカウントします、そしてプラスになると、さらにディスカウントされてくるものや、こういう公演があったらただで招待するというベネフィットがついてきます。

○原田議長 わかりました。

入園料が組み込まれているか、組み込まれていないかというふうに理解しました。

○須藤委員 入園料が組み込まれているのはメンバーシップ制の方で、アニマルファミ

リー制度の方にはついていないです。

○原田議長 そうしますと、動物園とのメンバーシップということでは、相手は動物ではなくて動物園ですね。動物園と自分の関係がメンバーシップ制で結ばれているということですね。

○須藤委員 そうです。その中に好きな動物がその中にいたら、さらにもっと深くかかわれるような制度をつくっていくという形です。

○原田議長 わかりました。

そういう意味では、これは明らかに違うと思います。今、おっしゃられるメンバーシップ制という意味では、パスポートがありますね。年間、これをお買いいただければフリーで入れますというカードを出しています。そのような割と単純なものが適用されているということです。しかし、単純とはいえ、あれはかなりのディスカウントではないかと思うのです。

○須藤委員 そうですね。1,000円というのはすごく安いと思います。

○原田議長 3人でも3,000円でみんなフリーだということです。

ただ、アメリカの場合、私はホームページで見るとは見るしかないので、見た限りではメンバーシップの仕組みが非常に細かいのです。例えば、1人でメンバーシップに入ると友達1人は連れていけるとか、連れていかねないところもあるのですけれども、家族何人までとか、家族全部だったら幾らとか、そういうものがあるのです。

その辺は、非常に重要なところだと思うのですけれども、この考え方はちょっと新鮮かなと思っておりますのは、動物とのかかわりなのです。この動物なのだよというところなのです。だから、動物園総体としてのメンバーシップというよりも、お金を出すから安く入れてというよりも、「この動物ですよ、私の動物は」というものをつくるというのは、よそでもなかなかないのではないかと思うのです。

特に、希少動物の世界では、これについては何々という理由で募金をしております、どうぞ募金してくださいというものがあります。あるいは、ケージが壊れてしまって、それを至急直さなければいけないので寄附をお願いしますという緊急的なものがあると思います。しかし、ここでの一番の特徴は、この動物を家族にしてやってくださいというところがありますので、もうちょっと動物とのかかわりが近いのです。そこだと思うのです。ただ、そのオプションとして入園料のメンバーシップみたいなものをつけるというのはありではないかと思えます。それはご指摘のとおりです。

○須藤委員 言い方がちょっとよくなかったと思います。

○原田議長 何回かやるのは面倒くさいので、一発でいいではないかみたいな、オプションつきみたいなものですね。

○須藤委員 オプションをもうちょっとよくした方がいいと思います。うちの息子、娘も太郎ちゃんに会いにきたくて来ているようなところがあるので、この制度は非常にいいと思うのです。ただ、会いにくるために、私はパスを買っておりますので、入園料に

関して問題ないのですけれども、では、自分の立場で考えたら、もうちょっと駐車場料金を安くしてもらおう。駐車場を維持するにもお金がかかりますので、フリーにする必要はないと思うのですけれども、例えば700円を500円にするとか、そうしたら、月1回来るところを月2回、3回となると思うのです。変な話、3回来たら1回よりもかかるのですけれども、気持ち的に来られるのです。ですから、メンバーシップ制をつくらないのでしたら、こういう形で入園料を入れたり、もうちょっと特典を多くした方がいいかと思いました。

○金澤園長 事務局の方から検討した経過を簡単にお話させていただきます。

今の入園料をなぜセットしなかったかという、我々の想定ですけれども、ファミリーになるだろうと思われる方というのは、そもそも年間パスポートを持っている人が多いと思っています。ですから、あえてそこを入れても、今度は時期がずれてくるわけですから、それよりは割り切ってしまう方がいいかなと思っています。

それから、当然、高校生以上、中学生以下で有料と無料というのがあるので、そこも差をつけたくないということです。

それから、結構あるのですが、レディーのことです。今、我々は札幌で議論していますが、全国でレディーの放送がされていて、レディーを応援したいという方が全国にいるのです。そういう方は、ファミリーになってくださいという話はできますけれども、年間パスポートをあげても無意味になる可能性があるのです。

そういった意味で、割り切ってしまうという前提でこういう整理をしたのです。また、特典の中にそれぞれ招待券などがあるので、そんなところに差が出ないと思って割り切りました。ということで、入園料はセットしておりません。

それから、確かに駐車場料金が高いというご批判はずっとあるのですが、この時点で安くするとすると、条例の改正が伴いまして、そうすると、これがスタートできないので、そこは割り切って進めてしまおうという発想で入っています。

○林委員 駐車場の件については、主婦の発想が大事だと思うのです。

要するに、札幌市の公共施設、芸術の森もそうですけれども、駐車場がお得ではないのです。遠くに行くほど極めてお得ではないのです。モエレ沼は、逆に国の施設ということもあって無料になってしまっているのです。財源としての補てんができないというところが悩ましくて、どっちもどっちなのです。ただ、今の駐車場料金を安くするのは、ある意味、議長からも特典は何かということがあったときに、僕もこれは大体同じだなと思います。しかし、たくさん来てもらって、また家族にも来てもらいたいという思いをどこで伝えるかという、僕は駐車場をとということがあると思うのです。

例えば、条例改正で改正しないとするならば、幾ら払うかで、500円だけれども、それはその中に入っているのだという考え方の中で還元されれば、何人が何回来るかわかりませんが、その平均値で、条例を変えるのはなかなか難しいと思うのですけれども、そこは何とか制度と現実をあわせてやることは、ある意味、大切だと思うので

す。

極端な話、円山動物園の駐車場はなかなか便利な駐車場として、ファミリーで5,000円払うと安くなるぞといったら、議長は怒るかもしれませんが、動物とかかわりなくお金を払ってしまおうかなという人もいなくはないと思うのです。

だから、何回来るかというところで、10回以上はやめましょうとか、10回以上はとにかく払ってくださいというように、条例的なことをうまく還元して、10回以上来たらちゃんと払ってくださいと。ただし、10回以上の割引のディスカウントチケットは差し上げますと。いわゆる招待券と同じですね。

そういうことは、今、須藤委員のお話を伺って、現実感があるなど、これは得したという感じがあるなど、これはお手伝いできているなど。ただし、動物園としてはちゃんと営業して、決して減らしているわけではない、そこでサービスしているわけではなくて、ちゃんと市の収入にはなっているのだというシステムさえわかりやすくつくれば、最初に出す5,000円というのは気持ちいい5,000円になるような気がします。

円山が好きな人は、5,000円で10回だったら何とかかなるかとか、動物園に来ない人がいっぱいになってしまうと大変ですけども、とりあえず思ってみたことを言ってみました。

○金澤園長 駐車場は動物園に併設されていますけれども、位置づけとしては円山公園の利用者に対する駐車場というつくりなのです。ですから、今、林委員が言われたように、確かに動物園に来てメリットがあるというのはわかります。

ただ、円山公園は、ご存じのとおり、動物園の駐車場が830台ぐらいで、あとは神宮の駐車場しかないのです。土・日は結構込んでいまして、今、駐車場の外で待っている車がここの近隣の方々に迷惑をかけているのです。ですから、我々としては、リスタート委員会の中でもいろいろと議論があったのですが、できれば公共交通機関に乗りかえていただきたいということが一方ではあるのです。確かに、安くすることによって車の方は便利だということはわかります。そうすると、この周辺にもっと迷惑をかける可能性があるのも、実はその辺がづらいところなのです。

昔、ここの前も土・日は歩行者天国だったのです。それが廃止になりました。これは地元の皆さんが不便だということから廃止になって、今まさに車は結構いいスピードで走っています。そういった時代的な変遷があつての現状なのです。

リスタート委員会の基本構想の中でも、歩行者天国にしようという話があります。それは、これから近隣対策をしっかりした上での提案だと私どもは思っていますから、そういったところをクリアしないと、今の時点でこれ以上車がふえるというのは、一瞬、ちょっと待てよと思ったのです。

そこら辺が痛しかゆしなのです。そういった意味で、今回、このアニマルファミリー制度も、いきなり本格ではなくて、試行をして課題を洗い出していくという考え方です。

○原田議長 そういうことであれば、逆にウィズユーカードのようなものを割引として

つけるというのは誘導としてあるのではないのでしょうか。

○金澤園長 ありますね。

そこで、ことし、ウィズユーカードと年間パスポートをセットにした「ウィズユーパスポート」を売ったのですが、やはり結構売れるのです。

だから、今、いろいろなやり方あって、それを一つずつやっています。それで、どういう組み合わせがいいか探っているところです。それこそ、基本構想の議論のときに、ここへのアクセスをどうする、こうするという話があって、馬車がいいねという議論もありましたけれども、そういったところが出てくると、公共交通機関に乗りかえていく方もふえるのかもしれないと思っています。

○鈴木委員 その件については、今余り深入りしてもしょうがないと思うのですが、地下鉄からここまでのアクセスは、私は九州、本州の人間ですけれども、北海道の方はどうしても車を使いたいのです。それは、冬は寒いということがあると思うのですけれども、地下鉄からここまで歩けと言われると、小さいお子さんをお連れの方やお年寄りの方は大変なのだろうと思うのです。

知り合いが円山西町にいまして、駐車場待ちの迷惑を受けていらっしゃる方から聞いたのですが、マイクロバス程度のバスが円山の地下鉄の駅などをぐるっと回るものが土・日だけでも動いていれば、西友にも行けるしということをやっていたのです。生活にも使えるのですね。これは、動物園の話だけではなくて、市のまちづくりの話になると思いますが、それを思いついたので申し上げました。

それから、5,000円というお話ですけれども、先ほど、他都市でやっているものの紹介があって、聞き取りができたところでは500件程度というお話でしたが、500件程度であるということと、経費にどれだけかかるかというバランスで5,000円がはじき出されてくるのだらうと思うのですけれども、500件というのは少ないなという印象がすごくあるのです。まちの規模とか、どういう層の人たちがこの動物園にかかわっているかということと関係があると思うのですけれども、このアニマルファミリー制度もせいぜいその程度だろうという予想のもと、5,000円を出されているのでしょうか。

○金澤園長 簡単に試算した経過をお話しさせていただきますと、5,000円というのは、先ほど申し上げましたように、今は12園しかありませんが、その中の大体真ん中ぐらいかなという数字にしたのです。

人数は、上野で大体500人です。ほかのところでも、収入のわかるところは、計算し直してみると、大体300から500人の間ぐらいなのです。ですから、人口で考えると、横浜であってもそれぐらいなのです。

例えば、先ほど申し上げたように、50種類の動物に名前がついていますから、もし、それらを全部やって合わせても500人ぐらいだと仮定しますと、単純に言うと、寄附で受けられるのは5,000円だったら250万円になります。これは、2,000円

の人が多くなったら、その分、下がりますし、1万円がふえれば逆に上がるということになりますが、単純計算で5,000円でやると250万円になります。それにかかわる事務費も計算しますと、やはり250万円を超えてしまうのです。

それから、郵便を出すだけでも、紙ベースで送るとなると80円かかるわけですから、それを積み上げていくと結構な金額になってしまうのです。

そこで、今、我々が想定しているのは、大体1,000件あると収支がとんとんぐらいかと思っているのです。そのぐらいないと、動物のえさ代に行かないのかなという感じがします。ですから、単純には割り切れませんが、事務費は事務費で動物園が負担して、いただいた会費は寄附だよという整理をするのだったらいいのだけれども、そうはいかないかなと思います。やはり、収支は考えなければならぬですからね。そうすると、1,000件以上を目標として我々はPR、営業努力をしていかなければならぬだろうと思っております。

ただ、一たんは、全国の件数が大体500件前後ということで、こんな試算してみました。

だから、結構厳しいですし、企業などの大口をできるだけ集めるようにしていかなければならないと思います。

○鈴木委員 そうすると、会員になってくださる方がふえればふえるほど、大きければ大きいほどいいわけですね。

○金澤園長 そういうことです。

○鈴木委員 そうすると、今、おっしゃったように、PRの仕方というか、広報の仕方だと思うのですが、これは単に思いつきですが、コンサドーレの選手のだれだれさんはララのファミリーですとか、日ハムの選手はというような働きかけをして、ファンの選手がファミリーならばという形で広げていくと。

そういうときに、話が拡散しますけれども、ほかの動物園では動物舎にファミリーの名前がついていたりしますが、それはお考えになっていないですね。

○金澤園長 今のところ、大口の企業は看板を出そうと思っていますけれども、個人はホームページだけにしようかと思っております。そうしないと、プレートをつくるだけでも大変です。

○原田議長 今のPRのアイデアはすばらしいと思います。つまり、それをするとファミリーとファミリーがどんどんつながっていくと思うのです。私も入る、私も入るといようにね。

私は、これは新しい経営計画の経営戦略の一環としてきちんと考えるべきだと思います。500件程度だろうでは、余りうまみもないし、努力を多くしてみたいところがあるのではないかと思うのです。

だから、さっき私は言いましたけれども、よそは会員特典がそんなに魅力的じゃないからそんなに入らないのではないか、だから、ここの会員特典はよそと違うよという光

るものを持たないと、よそと同じ500人ぐらいになってしまうと思うのです。やはり、1,000件ではなくて、1万件ぐらい、1万ファミリーを当面の達成目標に置いておいて、1万人で5,000円だと5,000万円です。それが2万人で1億円です。そうなってくると、入場料をいつ超えるかという話になるわけです。私は、年間60万人の入場者がいるのであれば、その1割の6万人というあたりぐらいまでの長期目標を持っていいと思うのです。そうしますと、3億円ですね。私は、それぐらいの野望を持っていいのではないかと考えているのです。

実は、この特典も、物というのはどうしてもお金がかかりますし、コストがかかりますから、むしろ情報を提供するということにウエートを置いて、ネットワークをフルに活用することがいいと思います。写真が得られるというよりも、動画が得られるぐらいの特典をそれぞれが得られればいいのではないかと考えています。

私は1点だけ申し上げたいことがあるのですが、会員の年間費についてです。これで行きますと、例えば、中学生以下が2人いて4,000円ですね。そして、高校生以上の親が2人いたとすると1万4,000円ですね。家族ぐるみで1万4,000円に入るというのは、ちょっと高いのかなという感じがするのですが、大丈夫でしょうか。

○須藤委員 無理ですね。

○鈴木委員 そういうときは全員入らないのではないですか。

○須藤委員 無理です。せいぜい子ども2人までですね。

○原田議長 そうすると、さっきの5,000円というのはもろくも崩れ去りまして、2,000円ベースで500人という100万円になってしまうわけです。それだともできないのではないかと感じがしますし、えさ代にするよと言ったことが実現できなくて、言ったのにやっていないのではないかとということになりかねません。

ですから、逆に言いますと、中学生以下が5,000円で親が2,000円というところで、むしろ子どもを主体にして入れる。2人でファミリーになるのだからいいじゃないか、このカード1枚で入ろうということで、それを女の子と男の子が共有するぐらいで、それでも2,500円になってしまいますが、そういうこともあるのではないかと考えています。多分、家族で入って6,000円ぐらいが限度ではないかと思うのですけれども、どうでしょうか。

○須藤委員 そうですね。1万円を超えると、月々少しずつ出しているのと違うので、トータルでその金額だったら結構忘れて出していたりすることもあります。一気にとなるときついですね。

○原田議長 その予測値の立て方ですけれども、60万人が入るからといっても、家族で来ている人たちは結構多いので、一家族3人ぐらいというふうに考えると、20万ファミリーぐらい、その1割という2万ファミリーですね。2万人ぐらいはせいぜい考えられる最大限みたいなところで、その2万人を対象にして、最初は少なくてもいいと思いますが、2万人達成を目標値にするぐらいで事業費を考えていくべきではないかと私

は思います。

○林委員 お金の取り方はすごく難しいので、本当に緻密にお考えになられればいいと思うのですけれども、グループを単位にするかしないとか、法人、団体とありますね。例えば、僕はこの委員になってから会社の中で広げているのですけれども、例えば、僕であれば、1万円を出すから、3人で3,000円ずつ出そうぜ、3人で行こうぜという話だと乗ってくると思うのです。僕は、そういうふうが発想するのです。例えば家族だと6,000円まではオーケーだと。では、中学生が2,000円払うとなると多く見えますけれども、友達と一緒に誘ってやろうぜと。例えば、今、環境の問題とかさまざまな問題でちょっと触発されるところがある。そういう意味では、できれば、中学生以下というのは、中学生の友だちと一緒に、それは、だれかがリーダーシップをとって、おれはホッキョクグマが好きなのだ、だけどという物語ができると思うのです。お前、誘えと。

問題なのは、一番大事なことは、人がたくさん来てくれることによって、例えば3人で来たら、今度は3人のうちの1人が一人で行くようになるということが動物園にとっても大事だと思うのです。これは、考えてみたら、高校生1人5,000円と、その一人の少年を考えると、そいつは相当進んでいると思うわけです。進んでいるやつで一番大事なものは、お前も誘うという誘い水、もちろん1人で入ってもいいわけです。おれは1人で名前を入れたいのだと。だけど、そうではなくて、名前の頭文字をとって、ナマカナとか、ナカニシとか、いろいろな名前を入れて4人に入ったとかね。4人以上だと率が悪いとか、そこら辺の制限をすると結構おもしろくなるのではないかという気がするのです。

家族も3人までは団体として扱ってもらって、1万円でやるか、6,000円でやるか、家族一緒というものになると、お父さんだけ入っていないと、だから払ってと。払ってというか、招待券は来ないというのはあたりするかなと。結構楽しいものになるのかなという気がするのです。

今の家族の構成で言うと、今は少子化なのでわかりませんが、一人っ子が多いにしても大体3人という気がするのです。そういうものが議長がおっしゃったこととうまくリンクするといいかなと、僕は今回のものを見て思いました。

○原田議長 会費の件は、来られるか来られないかみたいなどころがありますので、ちょっと慎重に、来られるように設定をしていただきたいと思います。

私は、何といたしても気になるのは、これにアニマルファミリーになってなぜうれしくなるのかということなのです。例えば、私のイメージの中には、今のファミリーは大体パソコンを持っていると思うのです。その端末を使って、例えば、チンパンジーのレディーであれ、オランウータンの弟路郎であれ、ライオンのリッキーであれ、とにかく指定して見るわけです。そうしたときに、こんなしぐさをしたぞという映像が撮れたとしますね。カメラのボタンを押してその映像が撮れたとしますね。そして、それがホ

ームページ上にアップされて、撮った人の名前がついて出ると、「おい、見ろよ、おれのが出てるぜ」と。そうすると、おれだってもっといいものを撮ってやろうという仲間がふえてくると思うのです。そういう動物を介した仲間づくりみたいな仕組みをどうやってつくるかなのです。

それは、一度つくってしまえば、そんなに難しいことではないです。ただ、カメラが必要になりますし、対象動物の数だけカメラが必要になりますので、その辺は企業の寄附金などに期待しなければいけないかもしれませんが、ファミリーになったから特別に得られるもの、参加してこういう世界に飛び込めるといふものが必要だなという気がします。

○須藤委員 アメリカのナショナルズーのパンダは画面で見ることができます。今の時間は寝ているのだとかね。それは、見るだけでも楽しいので、そういう発表の場があったら、より楽しいと思います。

○鈴木委員 先ほど、園長から、全国でレディーが放送されたというお話がありましたね。私は、メールでやりとりをしている東京の友人や九州の友人に動物園の話をしたものですから、そのテレビを見まして、このホームページのブログを毎日見ている知り合いがいます。そういう人たちは、動物園には来ないのだけれども、動画見られるのであればファミリーに入るといふ人は結構いると思います。

○森田委員 サービス内容のところで、私がこれを最初に見せていただいたときに、全部えさ代になるというので、えさをあげられるのかなと思ったのです。隣にどきどき体験というものがありますけれども、先ほどおっしゃられたように、本州の方とか、なかなか来られない方はそのサービスを受けられないかもしれませんが、自分が払っているお金がえさ代にかわって、実際に来たときに、一つでも直接あげられる動物がいれば、それは楽しいだろうと思うのです。動物によっては危険でだめというのものもあるかもしれませんが、そういうものがサービスの中にあったら、特に子どもは喜ぶと思います。

○原田議長 その辺は考えられることですか。

○金澤園長 それは、まだ特典のところの整理をしていませんので、これから検討していきますが、いきなりそこまで踏み込めるかどうか。というのは、大体1日のスケジュールはありますし、動物のえさの管理もいろいろとあるので、その辺が成り立つかどうかという検討はしていかなければならないと思います。

先ほど採算ベースのお話をしましたが、我々が当初始めたときは、初めから黒字にしようとは思っていません。とにかく関係性を変えることが第一の目的だろう、その次に事業として収支が成り立つかどうかというところに持って行って、最終的には黒字になるように会員数をふやしたい、こういうところに行くのだろうと思っております。それは、今後、いろいろなサービスをどう組み入れるかによっても変わりますし、その辺のつくり方だと思います。

それから、アニマルファミリーの考え方から、ファミリーという言葉をとって考える

と、グループのようなつくり方はどうかと、私は個人的に思いました。それは、これから検討させていただきたいと思います。

○原田議長 それでは、いろいろなご意見をいただきましたので、このような考え方で、細かいところについてはまだまだこれから詰めていく段階のようですが、アニマルファミリー制度を、こういう認定証で、この認定証も格好いいのものをつくってもらわなければいけないですね。

○金澤園長 この裏にあるのは会員証です。認定証のようなものは、それこそ学長にデザインをしてもらわなければならないと思っています、ただで。

○原田議長 アメリカでのこのような証書のつくり方はすごいのですよ。派手派手です。浮き出る認証マークがありますね。そこに金箔のようなものが張ってあって、すごく豪華なものです。そんなにお金がかかっていないのですが、そんなつくり方もぜひ動物園で実現してもらえると、わくわくするのではないかと思います。

それでは、ほかに関連するご質問等がございませんようでしたら、このようなところから試行的にスタートするという案をご承認いただいたということにしてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○原田議長 ありがとうございます。

また、いろいろとアイデア等がございましたら、動物園の方にお寄せいただきたいと思います。

それでは、次に参りたいと思います。

議題(2)と(3)を続けてご説明いただいて、またご意見をいただきたいと思います。

○金澤園長 それでは、資料2と資料4になります。

資料2は、厚いものですが、円山動物園基本計画草案と書いてあるものでございます。

まず、この資料の性格を簡単にご理解いただきたいと思います。この基本計画案は、何回も申し上げましたが、基本構想に基づく実施計画で、今、年度末までにこの実施計画を策定する予定で現在作業中のものでございます。このため、今回、皆様には検討途中のものを提案してございます。

今後、ソフト事業の枠組みやイメージ図、整備計画、さらには、この計画そのもの見せ方やレイアウトなどを工夫します。そして、年度末には最終的なものにする予定でございます。本来であれば、もっと見やすいものを皆さんにお見せしたかったのですが、それだと第3回目の会議になってしまいます。大体3回目ぐらいには、うちの方で原案をつくって札幌市でオーソライズしていく作業に入りますので、その作業と同時期になると、皆さんのご意見を聞いたり議論していただく時間的なものがなくなってしまいます。そうすると、この会議は何だったのかという話になりますので、不十分ですが、あえて今回提案してございます。

そして、本日、皆様からいただくいろいろなご意見やアイデアを踏まえまして最終版を目指していきたくて思っております。そういう意味で、まだまだ発展途上であるということはご理解いただきたいと思っております。

今日のご審議、ご議論の中で尽くせない部分については、後ほどメール等でいただいても結構です。その分は、後でこれに組み込めるものは組み込む作業をきちんとさせていただきます。

最初に、表紙の裏のページですが、基本計画の考え方です。

基本計画の考え方は、ただいま申し上げましたように、基本構想に基づく実施計画となるもので、おおむね10年間の長期計画となっております。ただし、2011年度、平成23年度は円山動物園のちょうど60周年ということになります。これまでの間を集中取り組み期間と位置づけ、札幌市のまちづくり計画との整合性を図りながら、できるだけ具体的な記述にしております。それ以降の部分については、今後、大体四、五年を目安に基本計画の見直しをしていきます。そういったときに具体化を図っていく考えでございます。

それから、皆さんもご存じと思いますが、昨今の厳しい財政状況とか、原油価格の急騰とか、地球温暖化の影響など、さまざまな外的要因によって、常に実現できるかどうかという可能性のチェック、検証が必要になります。さらに、毎年の財政状況とか、今ありましたアニマルファミリーなどの収入とか、実際の動物園の入園者による収入の状況にも応じまして柔軟に計画を見直すこともやむを得ないものと理解しておりますが、動物園としましては、基本構想の理念の目的をきちんと達成することを目指して取り組んでまいりたいと考えています。

そこで、目次をごらんいただきたいと思っております。

現時点では、基本構想に基づき整理しております。一つは円山動物園の役割と行動指針、もう一つは経営戦略とソフト事業、それからハード面の施設整備計画と動物管理という3本立てになってございます。役割と指針というところは、三つの役割と三つの柱で構成してございます。実は、ここには検討項目が37件ございます。それから、経営とソフト関係のところでは検討項目として21件の項目があります。さらに、ハード系のところでは20件で、合わせて78件の検討を進めております。

そして、すべて後ろの方にページ数を打っておりますが、1枚ずつの個表として整理しております。これを1枚ずつにしてあるのは、我々がこれから事務的に整理していくときに基本構想とぴったり合っているかどうかをチェックしやすいようにという意味で、このようになっております。

役割と指針ということで1ページから37ページまでございますが、ここの部分には37件あるのですが、既に85%のものについては検討に着手、または実施に移ってございます。それから、ソフト事業のところも、38ページから58ページになりますが、ここではすべて着手なり実施に移っております。そして、役割と指針、経営、ソフトの

ところについては、これからもより完成度を高めた上での最終版の整理ということになると思います。

そういう意味で、一たん事前配付しておりますし、時間的な余裕もないので、本日はその説明は割愛させていただきたいと思います。

それから、ハード面の59ページから78ページですが、施設的には、まだまだ完成に至っておりませんし、絵もでき上がっておりません。そういうことで、おおむねの年次計画としましては、19年度からスタートしまして、まちづくり計画の年次計画、それから60周年以降の整備ということが盛り込まれます。

それで、次期まちづくり計画にあわせて今後見直しを図り、整備計画を策定するというので、年割りをきちんとつくっていきたいと思っております。

現在、19年にスタートしたまちづくり計画があるのですが、ことしの5月に中期財政見通しが発表されております。本日、参考資料としてお配りした一番最後のページですが、これを見ていただいてもおわかりのとおり、実は札幌市の財政状況は非常に厳しいのです。20年度で198億円、21年度で274億円、22年度で306億円、23年度で298億円の収支不足が見込まれております。そんなこともあって、財政状況が非常に厳しいものですから、我々も、市の中にあつて、システムの見直しなどが求められます。そういうことで、財政的に非常に厳しい状況がここ数年続くこととなります。したがって、まちづくり計画に実際に盛り込まれているからといっても確実に実施できるという担保もないし、予断を許さない状況にあるということをご理解いただきたいと思います。

ただ、先ほども申し上げましたが、動物園としては、この計画実現に向けてとにかく積極果敢に取り組んでいきたいという強い決意で臨んでまいりたいと思います。

それから、ハードのところの説明をさせていただきたいと思いますが、この中を見ていても字がいっぱい書いてあるだけなので、資料2-2をごらんいただけますか。

ハード系の盛り込んでいるものをこの絵に落としております。

資料2-2は、今現在取り組んでおります工事が完了したと想定しまして、19年度末での施設の配置図でございます。ここにありますように、ピンクや黄色に塗られたところは今やっているところ、それから、シカ、トナカイ放牧場と書かれている枠だけが入っているところは撤去するものでございます。今年度末にはこういう形になろうかと思っております。

簡単に言ってしまうと、これが現状でございます。

それから、次のページの資料2-3です。これは、今申し上げました現計画のうち、23年度までの集中取り組み期間に着手するもの、あるいは、着手する予定のものを黄色で表示してございます。それから、青いところは、計画に盛り込んであるが、24年以降の整備計画になります。それから、グレーに塗られているところは全然いじらないところになります。そういう意味では、物としては大体3分の1ぐらいずつくらの

割合になろうかと思えます。

これが園内でございます。

それから、園外ということで、資料2-4をごらんいただきたいと思えます。

これは、基本構想の中にもありますように、動物園を中心として動物園周辺を円山エリアというとらえ方として、動物園周辺の道路や河川、公園の整備を予定しているものでございます。整備する時期としては、来年から再来年にかけて調査、設計等をしまして、早くできるところから工事に入りたいと思っております。このように、円山というエリアの中でもこういう取り組みをしていこうと思っております。

それから、資料2-5は、整備計画ということで一応の年割で整理したものでございます。

23年までは一応の計画は入っておりますが、24年度以降はまとめて載っております。まだ年割がされておられません。

何回もうるさく言いますが、くれぐれも誤解のないように、これだからといって確実にこう動いていかないということをご理解いただきたいと思えます。これは、動物園がこういうふうに進んでいったらいいなという絵をかいて、これからの財政的なことも、来園者のサービスのことも動物園としては考えていますが、これは関係部局としっかり協議、調整を図らなければ決めていけないものでございます。そういう意味で、即実施ということではないことをひとつご理解いただきたいと思えますが、こんなイメージを持ちながら、何とか60周年を迎える平成23年、2011年までには円山動物園がどう変わろうとしているのかということをお見せできるようにしていきたいと思っております。

それから、資料4をご覧いただきたいと思えます。

これは、1回目にもパワーポイントでお見せしたものでございます。

まず、めくっていきますと、類人猿館ですが、既存の屋外放養場の改修で、来年2月の完成を目指しております。今はコンクリートでできているのですが、コンクリートの床を土にしたり、人止柵や掘り込みの改修をします。さらに、何となく柵がないように見えますが、周辺を透明なアクリル張りにかえまして、できるだけ距離感をなくしたいという配慮をしております。あわせて、室内側も整理し、快適な環境にするということでございます。

次に、北方圏施設（シカ・オオカミ舎）でございます。

これは、シカもオオカミも群れで行動しますので、可能な限り広いスペースをとり、生息環境に近い状態をつくっていきたくて考えてございます。

右側にオオカミ、左側にエゾシカということになりますが、その中央の部分にトイレもつけた展示センターを設け、さまざまな視点から生息環境について学べるように展示する予定でございます。特に、オオカミ舎の方については、日本オオカミ協会北海道支部からアドバイスもいただきながら決定してございます。今度はオオカミやシカが何と

なく群れで走る姿が見られるようになるのではないかと思います。

それから、3点目は、こども動物園のところでございます。

これは、今現在、こども動物園ということで触れ合いを中心にしている施設でございますが、この既存の施設をリニューアルしまして、北海道にすむ小型動物を展示するドサンコの森、それから、北米の森林のイメージを伝えるビーバーの森、それから、ふれあい広場、これは子どものところなのでトイレをつくりたいと思います。特に、ビーバーの森では、国内では初めての試みですが、プレーリードッグの巣穴の内部を展示してみようと思っております。

このように、今年は3カ所の改修に取り組んでございます。これら三つの施設のデザインや見せ方の工夫については、市立大学の全面的な支援を受けながら、相当長い時間議論をしながら設計してきたものでございます。

以上、簡単ですが、基本計画と取り組んでいる状況について説明させていただきました。

○原田議長 かなり大部のものを一気にご説明いただきました。基本計画草案ということで、かなり細かい内容で、たくさんページがございますけれども、このほとんどが着手されているということでございます。

こうやって見ると、随分いろいろなことをやられているのだなということがよくわかります。

○金澤園長 やっているというより、随分たくさん基本構想に盛り込んだのです。

○原田議長 でも、そのうち随分着手されていますね。

○金澤園長 結構やっております。ハード系は、何だかんだで大体半分は手をつけています。ソフト系は、正直に言って、熟度、完成度をどう上げていくかだけだと思います。

○原田議長 いかがでしょうか。このあたりでお気づきの点がございましたらお願いします。

これを1ページずつお聞きするのは大変ですので、何かありましたら動物園にご意見等をいただければと思います。

資料2-2の基本計画マスタープランの方ですね。平成19年度末は黄色いところとピンクのところのところが着手されていて、シカ、トナカイの放牧場は撤去作業が進められているということでございます。

マスタープランの基本、これからの展望は次のページの2-3の黄色い施設ですね。これについて、新設あるいは修復等が進められるということでございます。このあたりが平成23年度までの集中取り組み期間の間に完成を目指すというものでございます。

ブルーのところは平成24年度以降で、これは財政環境が好転すればとか、いろいろな外部資金の導入等で実現するものも出てくるであろうということです。青い施設については将来計画の対象ということでございます。

このあたりについて、ご質問等があればご意見をいただきたいと思います。

○須藤委員 円山動物園基本計画アクションプランの71ページの授乳室についてです。

現在、レストハウスに授乳室があると思うのですが、あの規模の授乳室ができるのでしょうか。

○金澤園長 レストハウスというのは、上の大きい方のレストハウスでしょうか。

○須藤委員 隅の方に区切っておりますね。あのサイズのものになりますか。

○金澤園長 それは、今、こども動物園につくるイメージですか。

○須藤委員 こども動物園と、これからできていきますよね。

○金澤園長 限られた施設のスペースの中でやっていますので、必ずしも今ここで何平米のものというお約束できないのですが、規模的にはあのぐらい、1メートルの1メートル70センチぐらい、畳1枚分ぐらいのスペースを確保して授乳室をつくっていきたいと思っております。

○須藤委員 使ってみた感想なのですが、おむつがえのベッドがあって、いすがあるという感じでできているのですが、そこにベビーカーごと子どもを入れるのです。例えば、あと1人、2人、小さい子を連れてきて、それで赤ちゃんがいるという状態で入ると、ぎゅうぎゅうなのです。ベビーカーを外に出せばいいのですが、兄弟がいて、お母さん一人で連れてきたときはちょっと大変かなと思います。もうちょっと気持ち広い方が使いやすいですね。昔だったら、外で待っていてと言ってできていたと思うのですが、最近は危なくて、連れていかれてしまうかなという心配があるので入れておかなければと思うのです。それだけではなくて、どこかに行ってしまうこともあるのです。ですから、もう少し広い方がありがたいと思います。

○金澤園長 これからつくるもの、そういう検討をさせていただきたいと思います。

○鈴木委員 設備のお話が出たので関連ですが、喫煙スペースですね。もちろん、分煙しなければならないので、喫煙スペースをおつくりになっています。私の夫が喫煙者なのですが、外から見えるようになっていきますね。そして、どこかに「人」というような表示をしてあったように思うのですが、喫煙者に非常にいじわるだと思うのです。

北海道は喫煙人口が多いというふうに伺いますので、お子さんが外で待っていて、お父さんやお母さんが吸っていらっしゃるということがあるのです。それは非常に不親切な気がするのですが、そのあたりはどうお考えなのでしょう。なぜ透明にしなければならないのか、何か理由があるのかもしれませんが、何となくいじわるな感じがします。

○須藤委員 親の立場から言うと、子どもが見えている方がありがたいのかもしれませんが。

○金澤園長 実は、今は3カ所しかないのですが、これ以上つくる気もありません。そのかわり、一つ一つを少し大きくしてあります。

そして、まさにつくるときに見える、見えないということは議論したのです。それで、

これは見える方がいいね、変に個室になったときにちょっと困るねということと、子どもがあの中に一緒に入っていればいいのですけれども、そうはいかないだろうと。だから、見える範囲で何とかしようかと思ったのです。

○鈴木委員 視線のあたりぐらいを少しぼやかして、お子さんたちは見えるとか、外の人と目が合うと何か恥ずかしいようです。

○金澤園長 逆に、恥ずかしいと、たばこやめるかなという気持ちがないわけではないのです。

○鈴木委員 そこまで教育的な配慮をされているのですか。

○金澤園長 はい。それで、いつか、大変議論になりましたが、看板もつけました。このぐらいはつけてもいいかなと思ってつけたのですけれども、結構批判が強かったので外しました。マスコミ的にはすごくおもしろいと言って取り上げていただいて、すごい反響があったようです。

決して喫煙者をいじめるわけではないですが、ここはある種、教育施設ということもあって、学校だと敷地外でなければだめですね。そこまで徹底するわけにもいかないということから、最小限にしたのです。以前は至るところに灰皿がありました。最初は50個ぐらいあったのです。それを二十何個にしたのです。そして、減らしてきたのです。

今でもご意見箱には喫煙場所をふやしてというご意見も来ているのですが、私はかたくなに抵抗しています。

いがらし委員が来たからではありませんが、かたくなに私は抵抗しています。

○いがらし委員 私はここでも吸いたいぐらいです。

○原田議長 今、3カ所というと、どこになるのですか。

○金澤園長 ここの隣と、西門のところと、大きい方のレストハウスの3カ所です。全部、3カ所とも素通しです。

○いがらし委員 「珍獣」と書いてあってもいいから吸いたいです。

○金澤園長 最近、そういうご意見があるのです。

今後、これから一つ一つ獣舎のイメージ図をつくっていきまして、そういうものを見ながら我々で議論しながら、一番詳しい飼育員と議論して、見せ方ということで市立大学とも相談しながら、それから、動物にかかわる担当者がいますので、そういう方と相談しながら一つずつよくしていこうと思っています。

ただ、金ぴかのものをつくるつもりはありません。地味かもしれないけれども、お客さんから見て見やすいものに何とか変えていきたいと思っています。

それから、一番ポイントになるのは動物がいかに快適に過ごすかということで、その次にお客さんと動物との関係ということで、その距離感をいかに縮めるかです。ご存じのとおり、今のうちの獣舎はどれをとっても距離感があるので、できるだけ距離感のないものにして、見せ方を工夫する仕掛けを考えていきたいと思っています。

今回、類人猿の弟路郎もそうなのですが、お客さんのいる側が一番快適な場所だよと

いうつくり込みをしているのです。例えば、冬でも使えるように、今ごろだとまだ外に出られるけれども、寒い時期には暖房が入っているとか、夏だったら日陰があって涼しい場所をできるだけお客さんがいるそばにつくるとか、そうすることによって距離感を縮めていけるし、また、そういった場所にえさを置くことでだんだん近づいてくるといふこともあります。そういう方法をいろいろ織り交ぜて、いい形をつくっていきたいと思っています。これから一つ一つこつこつやりながら、いずれ、この部屋にいっぱいイメージ図があるぐらいにしたいと思っています。

○原田議長 確かに、動物はものすごく敏感なので、ちょっとでも暖かいとそこに行くということがあります。そこで見ている人がいれば、ああ、近くに来てくれたと誤解してくれるわけです。

私はまだよくわからないのですが、多分、資料2-3が全体計画なのですね。北方ゾーンが南ゲートの方に集中して配置されていまして、ゾウ館やアフリカゾーンが真ん中に来ています。したがって、冬場は南側では給湯などの配管が必要になるような、つまりエネルギー施設に関してですが、そういうようなイメージがこの裏にはあるというふうに読んでいいのでしょうか。

○金澤園長 そうですね。実は、ゾウ、アフリカ、アジアゾーンのところは暖房を使うので、それをコンパクトに真ん中に集中させました。

それから、北方のちょうど真ん中に海獣・ペンギン・第2ホッキョクグマ館と書いてありますが、これは全部、大きなプールを持っているので、水が集中するようにしています。そして、南側が地形上一番高くなっておりまして、南側の一番上に受水槽があるのです。その近くに水を使うところをつくって、そこで使った水を循環させてほかのところを使うときに、落差をそのまま活用できる仕掛けも考えた上で、配置としてはこういった方が望ましいのかなと思います。エネルギーというか、資源をいかに有効に使っていくかということを考えています。

それから、先ほどの暖房にしても、今、省エネをどうとらえるか、新エネルギーをどうとらえるかという視点からも入れてございます。

これは地上ばかり出ていますけれども、地下の方もきちんと検討しております。

○井上委員 資料2-3の質問です。この青い部分はまだ明確に決まっていないということなのですが、アフリカゾーンやアジアゾーンをつくる計画になっています。これは、生態展示というか、分布しているところが同じ種を集めるという多摩動物園でやっているような展示に準じているのだと思います。それは、アフリカゾーンにライオンやシマウマやキリンがいてという形になると思うのですが、その反面、チンパンジーはアフリカに住んでいるのだけれども、全然場所において、ゾウ館だったら、アジアゾウを展示されるのかアフリカゾウを展示されるのかわかりませんが、アジアゾウだとしてもアジアゾーンから離れた場所にいるわけです。やはり、生態展示をするのだったら、生態展示できちんと方針を決めた方がいいと思います。この展示の仕方だと、アフリカゾ

ーンやアジアゾーンをわざわざつくるのに、そこにすんでいるものがまた別の場所にいることになって、脈絡がないというか、コンセプトがよくわからないと思ったのです。その点についてはどういうふうにお考えでしょうか。

○金澤園長 もともとアジア、アフリカというゾーニングをしておりますが、それにかちがちに縛らないで、お互いにかぶってもいいでしょうというつくり方をしようという考え方が基本構想の中にあります。その中で、基本構想についている簡単なイメージ図がありますが、あれもぎちぎちに書いているわけではなくて、これから変わっていくだろうと。

アフリカゾーンにしてアフリカとくっつけたら、この面積で1カ所で作ることは不可能です。ですから、ゾウならゾウだけで広い面積がどうしても必要だというインパクトのあるものはそういう集め方をしようという前提で入っております。

類人猿系というか、サル、ゴリラ、チンパンジーはある程度そこにまとめたという趣旨です。

モンキーハウスにしても、チンパンジー館にしても、現状でここ10年以内に改築なり何なりがあるという、あの施設はまだ新しいので無理なのです。逆に、そういうものをうまく活用した方がいいだろうと。何でも新築するのではなくて、既存のものを活用したり、リフォームしながらやっていきたいと思っています。

実際に、動物園がやるものは全部新築ですといったら一番きれいに簡単にできるのだけれども、それでは市民としては何ぼ税金があってもかなわないということになりますので、活用できるものは活用するという前提で、最低のものを動かす考え方でやっております。

ちょっとイメージとは合いませんけれども、基本構想の中に入っている大体のゾーニングにあわせた絵がこれなのです。

○林委員 今、井上委員がおっしゃっているのを助けると、この館内におけるサインのあり方です。僕は広告やPRという観点から話しますが、環境局の方もいらっしゃるのです。金がないのが見え見えのサインです。それはそれでいいのですけれども、サインこそが持っている財産の付加価値をどういうふうに高めるか。逆に、サインのあり方がそのメッセージをどう伝えるかということになるわけです。

だから、立体的になっていないという感じは、例えばアジアゾーンであるのだけれども、そのサインのつくり方一つで、あちらに行くとアフリカにすんでいるものだよ、アジアにすんでいるものだよというサインのあり方、それがトータルティーに見られればきっといい施設になるのだらうと思うのです。

恐らく、そういうことができない施設は旭山動物園だと思うのです。

ですから、できれば、こういう計画の中にサインのあり方を、原田先生もいらっしゃるし、札幌市立大学は特にサインのデザインについては非常に熱心に勉強なさっている学生さんがいらっしゃいますので、それを協働で、この予算の中で、サインを、

本当に子どもたちが楽しいようなものにすると。

入口から入ってすぐのところでは貧乏っらしいサインを見ると、愛情がこもっているのですけれども、施設を変えてきているので、そろそろこういう計画の中にサイン変更ということも大事な意味合いとして入れられたらどうでしょうか。

いがらし先生がいらっしゃいますけれども、鼻をかいて、目をかいて、最後に、それでいいのかというので言えば、その後の1点というのがきっとサインだと思うのです。

○金澤園長 今のお話をもっともなことで、我々も本当に大事な話だと思っています。それこそ、地下鉄から動物園の誘導サインすらまともではないのです。それは十分わかっております。

そこで、基本計画の61ページに、園内の総合的なデザインということで、今、検討に着手しております。それこそ、今、言われたように、原田学長と一生懸命相談しながらやっています。

そういうことで、園内、園外も含めた統一的なデザイン化を図っていこうと思っていますので、その中で、今、林委員が言われたように、うまく施設のつながりや案内をできるようにしていきたいと思っています。

一つの施設ができるごとに少しずつサインが変わっていくと。本当はいきなりぼんとやればいいのですが、今、変えていくのが目に見えているので、少し時間をかけなければならぬかなと思っています。

○鈴木委員 関連するかもしれないのですけれども、どこか忘れたのですが、順路を掲示されますね。そのときの考え方なのですけれども、次は何がありますよという順路ではなくて、コンセプトとして、何をしにきたのか、何を見にきたのか、何を学びにきたのか、いろいろな目的はおありでしょうけれども、それに沿ったような順路をつくるようなことはお考えになっていらっしゃいますか。

○金澤園長 その人の目的に合った案内というのは非常に大事です。ただ、それは一人一人に対応するのは難しいです。例えば学校のような団体で、こういうテーマを持っているよという方々が来ると、我々案内する方も連れて歩けるのですが、一人一人はちょっと難しいので、そこは、これからサインを計画していく中で考えていきたいと思えます。

ことしの冬もそうなのですが、冬に元気な動物、冬の動物のマップをつくってきちんと表示する作業をしています。そういうふうに使分けをしなければならないと思っています。例えば、一般のお客さんが1時間で回るならこうとか、2時間ならこうとか、そこまでいけるかどうかわかりませんが、そういうふうになんか変えていかなければならぬかなと思っています。

○鈴木委員 何を見た後に何をみるとよいとか、あるいは、樹木マップをおつくりになっていらっしゃいますけれども、そういうものとの関係させるとか、基本構想の中の環境教育とか多様性を学ばせるような形で順路ができるのかできないのか私はわかりません

が、そういうコンセプトのある順路づくりができればいいなと思います。場所がここにあるというのは限られても、よそに移すのはコストもかかりますし、大変だけれども、順路をつくることで補うことができたらいいのではないかと思います。

○金澤園長 これからやっていく中に含めて検討させていただきたいと思います。

○原田議長 これを印刷物でつくと本当にページ数が多くなってしまうので、ディスプレイ上でプロットするなり、あるいは入力するなりすると自動的に順路が描かれて、それを出力して持って歩くというのはいいと思います。ぜひ、そういうシステム実現のための募金運動をしたらいかがでしょうか。

○金澤園長 今、環境教育という視点から、小学校向けの副読本ではないのですけれども、学校の先生が使えるものをつくろうと思っています。それは、動物園の職員もかわるのですが、実際に学校にいる先生方も含めて一緒に検討します。通常だと、副読本というつくられたものがあるって、それを活用するということになるのですが、今回は、素材だけを出して、その素材をつないでいくと答えになるという仕掛けを考えています。例えばクイズだったらクイズ形式で答えになるような、先生が独自にチョイスして一つのシートをつくるという仕掛けにしようと思っていて、そういう取り組みも始めました。そして、できるだけ早い時期に学校に配布したり、またはホームページ上から持っていけるようにしてあげれば、こちらの意向もあるけれども、先生方の意向とどうつないでいけるかということができると思っています。だから、今、素材の提供に切りかえようかなと思っています。そういうところも、教育大学の先生や専門学校の先生、それから現場にいる先生、それと動物園の職員という組み合わせで、今、チームをつくって動き始めたところです。

55ページに載っております。教材、ワークブック開発による小学校の総合学習誘致というところですが、こうした広げ方をしております。

○林委員 つい最近、うちの営業マンが、キナコが好きなのだと。僕はキナコはそんなに熱心ではないので知らないのですけれども、キナコの携帯の写真を持っているのです。それで、キナコを見て、「今回のキナコはよく撮れた」と言っているわけです。彼は、どういう順序で歩いているかということ、確実にキナコのところへ、直線的ではないのですけれども、行くわけですね。僕も動物園フリークでしたから、大体、自分のルートがあるのです。僕が人に話すときはベストルートを必ず言うのです。それは、自分自身にとっての動物園をみんなに見てもらいたいからです。恐らく、井上さんは、オオカミに行く前に何かに行って、必ずオオカミを見るようにということでオオカミを外さないと思うのです。僕らにとっては、今、その一人一人の情報がすごく大事なのだと思うのです。僕らはPRとか見てもらうという商売をしておりますが、実は、与える側の教育も大事ですけれども、同時に、自分たちが持っているストーリーをみんなは知りたいのだと思うのです。それがアニマルファミリー制度の中から生まれくるとか、お勧めの、自分たちはこうだと。つまり、年寄りだけを見に行くという、これは円山動物園しかない

のだというような、オオワシの次はキリンに行こうよ、何に行こうよ、最後はリッキーの子どもで締めようよというストーリー立てにみんなが加われる、それを円山ではできると思うのです。

展示施設でばっとやっていっても、動物と直でやろうというときに、ストーリーというものを、だから、サインもそうですし、全部連携していなければいけないと思うのです。それは紙で、文字でということではなくて、そこにこんなものがあるよというものがあるって、もちろん最終的には議長がおっしゃるように、データでいろいろ変更できるように、次から参加できるようにというふうになった方がいいと思います。

ただ、携帯電話というのは結構ありまして、私どももイベントを経験していると、今、東京の上野地区では実験が行われているので、その研究をごらんになればいいと思うのですが、そのエリア内でP Sだけで発信するのです。要するに、自分の持っているP Sをそのエリアの中で発信していくと情報がもらえるのです。それは発信するところだけをつくれればいいので、初期費用等がかかりますけれども、それほどでもないかなと。

いわゆるイベントの短い期間で2カ月ぐらいでやるときはそれを改修するまでにはいかないのですが、常備の施設の場合、定期的にそういうものを発信していくというのは、もちろんアニマルファミリー制度のときにはそういうものを定期的にもらえるとか、自分がそれを発信して、林型とか原田型というものを発信していくような、みんなが見方を変えていくようなものというものが、教育のレベルでもそうですけれども、僕は必要な気がするのです。

申しわけないのですが、これは大事なのですが、その上にこういうものがあると言った方が、きっとみんなは、なるほど、教育もやってみたい、見てみたいと思うのです。最初から教育と言われると、小学生かというふうになってしまうのかなと思います。大人の動物園を目指しているくせに、小学校のプログラムをやっている。これは、ある意味で多様性はあるのだけれども、では、どうするかというときに、選択肢としてたくさん持っている方がいいのではないかと思います。

何を言いたいかというと、ストーリーづくりのときに、ここの委員だけではなくて、こういう方たちを入れて会を開かれたらどうでしょうか。私はPRのプロだから、そこには入らないで、むしろ、実際にファンの方たちが、自分たちがストーリーを語ると、動物園の人も飼育係の方もあつと思うようなことがあるような気がするのです。そういう見方をしていたのかとかね。

そういうものはマーケティングとしてされたいかがでしょうか。そんなにお金はかからないのではないのでしょうか。皆さん、ただでいらっしゃっているのですね。ただでもないですね。

○原田議長 このアクションプランのシートを読んでいくと、いろいろなイメージが広がっていくような気がします。

きょうは、10分くらい時間があつたので、弟路郎を見てきたのです。そうしたら、長い棒を使って、はちみつのビンに突っ込んで、それをすぐなめるかと思ったら、そうではなくて、ここの柵のところには一遍置いて、そこでとんとんとたたいて、柵のところにはまず蜜を置くのですね。それで、ついた棒をなめているわけです。よく見ると、彼は柵に残っているのを確認して、その後、それをなめにいくのです。つまり、柵に一旦蜜を落とさないと、ここに持ってくる間に下にたれてなくなっちゃうのです。どうやら、それがもったいないと思うらしいので、柵にお皿を置いてやった方が絶対いいと思います。こいつは賢いなと思いました。

そういうちょっとしたサポートしてやるといいなと思います。あれは感動しますね。あれを見せるというのはすごいですね。そういう写真がちょっとしたムービーで載っていると、見にいこうとお客さんは思うでしょうね。

それでは、もう時間がなくなってきたのですが、2番、3番の円山動物園の基本計画素案の報告と3施設の新設・改修の実施状況報告は、これでご承認いただいたということにしたいと思います。

それでは、時間がないのですけれども、4番目のその他取り組み事業の近況報告について、短か目に報告をお願いします。

○金澤園長 資料5をご覧いただきたいと思います。

その前に、一番最初に申し上げましたが、基本計画の方でアイデアや提案がありましたら、遠慮なくメールで送っていただきたいと思います。我々もこれから作業していく中でいいアイデアは欲しいところなので、どんどん盛り込めるようにしていきたいと思います。

資料5は、19年度の近況報告ですが、近況といってもここ最近の話です。

まず、まさにこの会議の一つの目的である収支、営業というところをしっかりと見ていただきたいと思いますので、入園者数の話をさせていただきたいと思います。

まず、月別の合計が左側にございます。これは月別にそれぞれ数字が出ておまして、その累積が右端にあります。そして、10月のところをごらんいただきたいと思います。19年度は51万6,367人、18年度は54万2,156人ということで、マイナス4.7%、人数にすると、約2万5,000人減少しています。この落ち込みにつきましては、昨年、18年度はゴールデンウィークの前にサル山のレストハウスが完成したのと、まだホッキョクグマのピリカがいて、まさに子どものときがあつたということで結構人気があつたのです。ことしは、残念ながら、新しい施設もないし、人気のある子どもが余り生まれなかつたということもありまして、今度はレッサーパンダのココが来園しました。それから、27日にリッキーとティモンの夫婦に待望の赤ちゃんが生まれたということで、生まれて、まだ顔も見えていないうちに過大な期待をするのですが、頑張ってもらおうかと思っております。そういう意味で、この冬にしっかり頑張っていけば、少し回復できるかなと思います。

それから、イベントとしましては、12月の中旬から1月いっぱい、来年はネズミ年ということで、干支展を開催します。日ごろ皆さんが見たことのない、その辺にいるドブネズミではなくて、変わったネズミを展示しようと思っております。

それから、2月には、スノーフェスティバルということで、雪まつりの期間中に園内に滑り台やチューブスライダーができるようなコースをつくりたいと思っております。

それから、3月には、スネークアート展ということで、爬虫類系の展示を集中的に行います。これも、実は市立大と協力しながら、結構人気のあった展示でございます。

さらに、1月から3月までは、毎週日曜日、飼育員などが講演するサンデーセミナーを開催します。これは、裏話が聞けるということで結構人気があるのですが、そういったものをしっかり踏み込んで、何とか落ち込み分を挽回していきたいと思っております。何とか前年並みは確保したいと思っております。

それから、次の5-2ページは、円山動物園が告知または実施した取り組み・イベント等ということです。

この中で変わったところを申し上げますと、一番上の8月29日にホームページでバナー広告募集とございます。これは募集を行いまして、その結果、現在は6枠中2枠が売れております。まだ4枠ございますので、お知り合いの方で動物園と一緒にやってみたいという方がおられましたら、是非ご紹介いただければ私がすぐに伺います。今、月額3万円で3カ月を基本単位にしてございます。

それから、真ん中ぐらいの10月9日、新規参入店舗の提案募集とございます。これは、基本構想の中でもしっかり盛り込まれているのですが、コンビニ、カフェ、レストランなどを入れたらいいということがありましたので、来年度以降に参入を希望する提案を募集しました。その結果、コンビニが3件、カフェ5件、レストラン1件、ミュージアムショップと云っていいのでしょうか、売店にかかわるものが1件、それと移動販売ということで、合わせて12件から出店構想が提案されております。近々、これについては選定しまして、本格的な交渉に入っていきたいと思っております。

次のページの資料5-3です。これも収入の方に影響する話ですが、ことしの4月から1年を通してどれだけ寄附をいただいているかというものでございます。これは、動物のえさ代とか事業協賛という形で、一番上の小さい枠の中に書いてありますが、現金で333万円、現物寄附ということで32万円、合わせて365万円のご寄附をいただいております。ここのリストになっているのは公表に同意している方々だけなのですが、合わせて43件の寄附をいただいております。そういう意味で、皆さんにご協力をいただきながら、今、365万円の寄附をいただいている状況でございます。

こういった寄附が、先ほどのアニマルファミリー制度のように、皆さんにご協力いただけるようになると、経営の安定まではいかないけれども、ちょっと楽になるかなと思います。

先ほど申し上げました入園料も1億五、六千万円だと思いますので、これから冬を頑

張れば収入はきちんと確保していけるかなと思っております。

近況といたしますか、最近いろいろとやっていたことを簡単にご紹介させていただきます。

○原田議長 ありがとうございます。

今の近況報告について、よろしいでしょうか。

○服部副議長 私の方から1点だけお話しします。

18年度は11月、12月と低目になってきています。さらに、4.7%の入園減ということをお知らせしたので、そこを回復するためにさまざまなイベントがこれから行われるということで、期待していきたいと思います。

そこで、基本的に円山動物園が変わってきたのだ、変わろうとしているのだということをお知らせしなければならぬと思うのです。そういった意味では、広告的なものもしっかりアピールして行ってほしいし、それを受ける動物園側のスタイルをきちんとしていかなければいけないと思います。

例えば、今日ご覧になってわかると思いますが、この隣の食堂は冬期間は閉鎖となっているのです。基本的には、去年までと何ら変わらないスタイルで進んでいるわけです。動物園は変わるということをお知らせしたにもかかわらず、変わっていません。それから、キッドランドは、日曜日だけ運行して平日は休みです。これはサービスとしては非常に不親切なレベル極まりないです。平日来る人は無視するということです。たとえ1人のお客様であっても最大のサービスをするべきだろうと思います。

そういう意味では、冬場、レストランを閉じるということ自体に大きな問題があるのではないかと思います。ですから、園内の意識の改革がまだなっていないのです。早急にそこをあけていくぐらいの考え方で、もしあけないということであれば、それにかわり得るものを早急にそこに示していくことが大変大事なことではなからうかと思うのです。

いずれにしても、日曜日だけの動物園ではなくて、平日もおいでになられるお客様に対してきちんとしたサービスで対応するということがこれから問われていくのではないかと思います。

そうすると、変わっているのだ、変わってきたのだと、平日に行ってもわくわくどきどきだなど、こんな考え方が広まっていけば大きな成果が出てくるのではないかと、そして、それが12月の数字にはね返ってくるのではないかと、ぜひ、そういった部分については園側としても対処して行っていただきたいという意見でございます。

○原田議長 ありがとうございます。

○鈴木委員 冬のとこ入れですけれども、基本計画の方にもありましたけれども、割と対象がお子さんだと思うのです。ですから、もっと大人にということと、クリスマスはどうしてもうちよっと盛り上げないのかなという気がしています。

私が学生に聞いたら、動物園はデートに使うと言っていますので、クリスマスこそと

思うのですが、これから考えるのでは遅いかもしれないですけどもね。

○金澤園長 クリスマスの話をしますと、実は、去年はそれなりでした。札幌円山だけがクリスマスだったらお客さんが来るのですが、札幌市内の至るところがクリスマスなので、ほかの企業、デパート、ファクトリーなどに引っ張られるのです。だから、中途半端なことをやるとだめですが、相当派手なことをやればきっと集まると思うのです。そうすると、費用対効果を考えたときにどうかという議論がやはりあるのです。逆に言うと、クリスマスは余り手を出さない方がいいかという割り切りをしました。

それから、スノーフェスティバルです。森田委員がおられますが、ことしの2月、年度で言えば、18年度から初めてやったのです。今まで冬は冬眠状態のような動物園だったのですが、それではだめだということからやりました。去年は氷の滑り台を3本つくったのですが、大人気でした。ただ、ちょっと残念なことに、2月に雨が降ったのです。

それは、森田さんがおられる青年会議所の方々と一緒になってつくったのです。ところが、つくった大人の方が喜んでつくっているのです。そして、滑り台ができ上がってキャーキャー言っているのはだれかといったら、実は大人だったのです。だから、大人も結構楽しんでいるのです。雪まつり会場は、昔は真駒内で、今はさとらんどで滑り台をやっていますけれども、あそこだと待つ時間が長くて、大人は遠慮して子どもが滑るという状態ですから、今、ここは穴場なのです。大人も一緒に遊べるというつくり方になってきて、前は大人が結構楽しんだ仕掛けだったのです。どういうわけか、我々も最初は子どもを意識していたのですが、J Cの皆さんもお手伝いでいたし、この周辺の町内会の方もお手伝いいただいてつくっています。そういうことを今取り組んでいますから、来たら、大人は結構楽しめるのではないかと思います。

○鈴木委員 それでは、どうぞたくさんPRをしてください。

○金澤園長 問題はそこなのです。

○原田議長 時間が4時までということでございましたが、5分ほど過ぎましたけれども、これはというご意見があったらお出してください。

いがらし委員は遅く来られたので、何か一言ございましたらどうぞ。

○いがらし委員 私も別なクリスマスのイベントに携わっています。確かに、クリスマスはあちこちでいろいろなイベントがあるのですけれども、では、円山動物園に来たカップルはクリスマスがなくていいのかとなってしまうと、ちょっと寂しいなと思います。

うちには猫がいるのですけれども、この間、嫌がるのを無理やりサンタの帽子とマフラーをかぶせたら異様にかわかったのです。仕事そっちのけでスタッフが写メールを写し始めまして、ほかのうちに来ていないスタッフに送って、一時的に物すごく盛り上がったのです。

ですから、少ししか嫌がらない動物には帽子をかぶせ、マフラーをつけるとか、コス

ト的にそんなにかからないと思います。そういう帽子やマフラーは百均のショップで売っていますからね。

それは人間から見た愛らしさだと思うのですけれども、クリスマスに円山動物園に行ったらそういう動物を写せるとか、1カ所でもいいからつくったらいかがでしょうか。盛り上がりますよ、絶対に。

○林委員 広報的にも、円山動物園はやらないよりもやった方がいいと思います。つまり、我々PRする側は、結局、札幌ファクトリーにしても何にしても、私ども放送人として言いますと、新聞もそうですが、大体、記事になるのはスポンサーから要求されて記事になるのです。ですから、やらざるを得ないのです。

その中で、ここには記者がいなくなりましたが、記者の人たちは違うことを書きたいのです。ですから、書けるチャンスはあると思います。それから、副議長がおっしゃったように何か変わったぞということ言えば、どうでしょうか、園長がやらないと決めたことをやるということもある意味で変わったことにならないでしょうか。最後のオチとしていかがでしょうか。

それで、お金はかけないということと、僕は、夜のツアーをぜひやるべきだと思っているのです。円山動物園は夜の動物園がしっかりしているというふうにするのは、一つの大きな売りになるのではないかと思います。そこでクリスマスをやらないとなると、副議長に言われたのですから、一応、やった方がいいのではないのでしょうか。12月変わったよと。

というのは、ランタンは貧乏くさくていいと思うのです。80基ぐらいあるという話です。80基のランタンを持って、子どもと一緒に連れて、それから、レストランに行にしても、自分の家でケーキを食べるにしても、何かクリスマスの日には雪の中でランタンを持って歩くなめてめったにできないことですから、それは売りだと思います。

そこで、いがらし委員がおっしゃるように、動物園では服を着せないというのだけでも、今回だけ、こいつにだけは着せたかみたいだね。あとは飼育員を説得して、本来の姿ではないのだけれども、一応、家畜動物のようなものもいると思うのですけれども、そういうもので十分だと思います。まあ、シロクマにつけようということではないでしょうからね。

○須藤委員 トナカイもいいですね。子どもはいいのではないですか。本物を見て、夜を楽しみにするということもいいと思います。

○金澤園長 考えさせていただきます。即断はできません。私一人がやると言って、ほかの人がやらないと言ったら、私一人でやらなければなりません。

○服部副議長 ただ、来年度以降のこととしてそういうものを描いていくとすれば、やはり、すぐに着手していくというのは当たり前のことだろうと思います。来年からやるということでは来年からスタートするのと、来年から本格的にやるよ、では、今年はプレでいくよということではやられたらよろしいのではないかと思います。そういったこと

は、お客様にとっても非常に大きなアピールになるわけです。

○金澤園長 明かりとしては、12月15日から、入口の正門のあたりを全部イルミネーションで飾るのです。この辺はふだんも暗いので、ちょうど明かりになって、すぐく目立つ場所になります。そういったものはつくっていきます。

それから、31日から元旦にかけて、この辺に人がいっぱい来ますので、その目標にさせようとしています。本当は、市長からは夜中からあけろと言われているのですが、とてもではないけれども、夜中はあけられないのです。夜中の0時からあけろと言われているのです。神宮に来るお客さんを引っ張って来いというのが市長の目的なのですが、あそこに来る人は結構お酒が入っている人がいるものですから、それは動物園の中では困るので断っています。

そんなこともあって、ここに何か表示をしながら、動物園をやっているよということだけはお見せしているのです。それは、今年もやろうと思います。中でイベントをするかどうかはこれから大至急考えてみます。

○服部副議長 動物園神社でもつくったらどうですか。

○金澤園長 慰霊碑はあるのですけれどもね。

○原田議長 何か鳴り物が入るとするのは楽しくていいですね。笛とかね。

○林委員 夜中は絶対あけられないのですか。

○金澤園長 あけられないことはないですよ。

○林委員 では、酔っ払い対策だけだったら、例えば、個人名を出したら恥ずかしくて酔っ払えないと思うのです。だから、例えば、300人とか400人が12時に来たら、旅行だと定員が200人にならなかったら中止というものもあると思うのですけれども、一度やられたら、勢いでみんな来るし、動物園に行こうと、記念的なものになるではないですか。

夜中にやれないのなら別ですけれども、やれるのだったら、市長に言われたからではなくて、いわゆるアニマルファミリー制度にもつながると思うのです。SNSみたいな、要するに、自分たちだけ行けると。そのときに申請すると。ホームページで申請してくださいと。そうしたら、名前と住所と電話番号を入れたら、これは酔っ払えないですよ。酔っ払ったとしても、金澤さんが酔っ払っていましたよとか、林が酔っ払っていましたよとか、ちょっと酔っ払いの種類が違うと思うのです。

それだけでやらないのであれば、何かうまい方法があるのではないですか。

○金澤園長 もう一つは、動物の問題なのです。基本的に夜中に寝ているものを起こせるかという問題です。それがどうしても負担なのです。

昨年、夜の動物園は9時までやっていますけれども、5日連続でやったのです。そうすると、やはり動物に影響があったのです。そんなこともあって、今年の夜の動物園は週1回に変更しています。

そういうところも考えると、寝ているやつを起こすわけにはいかないのです。ですか

ら、動物のいない空間だけでやるのならいいのです。夜の動物もいますけれども、それは全部1箇所集中していないのです。そういうところを考慮すると、時間外に動物を起こすのはストレスの問題があるので、我々は余り好んでやっていないというのが現状です。

○林委員 動物の問題があるのならだめですね。

○鈴木委員 ネズミ年なので、夜行性のネズミというわけにはいかないのですか。

○金澤園長 ネズミは基本的に夜行性ですね。

○鈴木委員 ネズミ年なので……。

○林委員 ネズミだけ見るといいですね。

○鈴木委員 建物ではなくて、ケージをどこかにということはできないのですか。

○金澤園長 できますけれども、温度は必要なので、こういう施設の中になります。

○原田議長 クリスマス企画会のようになってきましたね。

そのように、小さなことから動物園が変わっていくことをアピールしていきたいなと思います。できることから手をつけていければと思います。

それでは、今日はいろいろなご意見を活発に出していただいて、ありがとうございました。

議事のその他というのは何かございますか。

○金澤園長 次回のスケジュールですが、お手元にカレンダーが入っております。今日も原委員はお休みなのですが、原さんのお仕事からすると、約1カ月半ぐらい前に決めていただかなければスケジュールをとれないですというお話を聞いているものですから、3月はできれば、第1週というか、2日の週に何とか入れたいと思っております。今回、原委員が一回も出ないで今年度終わるというわけにもいかないで、何とか調整をしたと思っています。それで、土・日も含めて検討しようかと思っております。

後ほど、メールか何かでお送りして、日程をお聞きして、調整してしまいたいと思います。今のところ、3月の初めぐらいで、学校の先生方はちょっと大変かもしれないですけれども、この時期に入れたいと思っています。

○原田議長 それでは、またご連絡をいただきたいと思います。

3. 閉 会

○原田議長 それでは、今日は、時間を超過いたしました。基本計画、アニマルファミリー制度ということでいろいろご議論をいただき、ご承認をいただきまして、ありがとうございました。

以 上